

ASEAN+3 地域経済見通し 2018

ASEAN+3 Regional Economic Outlook (AREO) 2018

概要

マクロ経済見通しと課題

1. 2018 年における ASEAN+3 地域の GDP 成長率は、頑健な内需と輸出の成長に支えられ、5.4%となる見通し。インフレ率も安定的に推移するとみられる。当地域の二大経済である日本と中国は、力強い（robust）成長を続けている。
2. AMRO の分析によれば、ほとんどの ASEAN+3 各国は景気循環の中盤（mid-business cycle）にあり、緩やかな成長が続くも、ゼロに近い小幅な需給ギャップと安定的なインフレ率が併存している。信用循環（credit cycle）に関しては、多くの ASEAN+3 各国において、信用創造はトレンドを上回る成長を続けたあと、当局による予防的な（pro-active）政策対応もあって、減速し始めている。
3. 外需の改善を受けて、ASEAN+3 地域は、潜在的な外的ショックに対応する余力（buffer）を一段と高めてきた。当地域の為替レートは、近年、一層柔軟に決定されてきており、緩衝材（shock absorber）としてより大きな役割を果たしてきた。
4. リスクをその蓋然性と時間軸の観点から整理した AMRO の「グローバル・リスク・マップ」によれば、ASEAN+3 地域が直面する短期的な二大リスクは、予想以上に速いグローバル金融環境のタイト化と、貿易をめぐる国際的な緊張の高まりである。これらのリスクが顕在化した場合には、当地域へのスピルオーバーは、資本フロー流出、借入コスト上昇、貿易・投資への悪影響を通じて生じるだろう。
5. 政策当局者は、グローバル金融環境が先行きタイト化するなか、上記のリスクに対処しつつ成長を続けるため、特に金融政策において、政策余地（policy space）を引き続き確保すべきである。財政政策は、利用可能な財政余力や財政ルールの範囲内で、成長を支えるうえでより大きな役割を果たすことができる。過去の信用創造により脆弱性の蓄積がみられるセクターにおいては、マクロプルーデンス政策の引き締めが金融システムの安定に有用であろう。

テーマ別分析：変遷する世界経済のもとでの頑健性と成長

6. ASEAN+3 各国は、「輸出のための製造業（manufacturing for exports）」とも言うべき戦略を追求し、経済成長、雇用、生産性および賃金を底上げするため、強固で自己増強的な原動力（strong and self-reinforcing dynamic）を作り上げてきた。
7. この「輸出のための製造業」戦略は、グローバル・バリューチェーンの構造変化——国内の生産能力向上により、中間財を輸入する代わりに自国で生産することが可能となり、高止まり（plateauing）の兆しがみられる状況——のもとで、その持続性を試されている。その一方で、ASEAN+3 域内の最終需要は増加しており、当地域の輸出をより多く吸収し、保護主義がもたらすショックを和らげる役割を果たしている。
8. 技術進歩は、「輸出のための製造業」により成長を実現していくうえで、両刃の剣となってきた。技術進歩や自動化の影響で、製造業は過去のように大量の雇用機会を創出しないだろう。その一方で、技術進歩は、経済成長や雇用の新たなエンジンとなりうるサービス産業の創出を促進している。
9. こうした課題に対処するうえで、ASEAN+3 地域全体としては、増加する域内需要を満たし、対外的ショックへの頑健性を高めるべく、域内の連結性や統合を強めていくべきである。また、ASEAN+3 各国は、成長著しいサービス産業を含む多様な成長のエンジンを持つことで、頑健性を高めることが重要となろう。
10. 豊富な成長への資源（ample resources）や国別の発展度合いの多様性は、ASEAN+3 地域の強みである。政策対応としては、貿易促進策とともに、国内および域内のインフラ投資により連結性を改善することに注力すべきであろう。また、サービス産業の自由化や、ASEAN+3 域内における人的資本の有効利用（availability）を促進する労働・移民政策を通じて、活力あるサービス産業や人的資本を育成する政策が適切であろう。

免責事項：本日本語版は、原文である英語版（<http://www.amro-asia.org/asean3-regional-economic-outlook-key-messages>）の仮訳です。仮訳にあたっては正確を期しましたが、不一致がある場合には、原文の英語版が優先します。